

性的少数者への対応進む

教職員への支援制度に課題

「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」が3月に改訂され、カミングアウトへの対応などの内容が加わった。全国の大学でも先進的なその取り組みは大きく評価されているが、その一方で、事実婚の関係では取得できる「介護休暇」などが同性同士では認められないなど、筑波大でも教職員の支援制度には課題が残っている。

(越智小夏比較文化学類3年、2面に関連記事)

改訂では、就職活動や個人情報への取扱いなどの具体的な事例ごとに、筑波大の対応や方針を明記。また、当事者への支援方法などが加わった。また、質問項目

Think
LGBT+.



分の気持ちを整理できるワークシートも追加され、新入生全員に配布された。改訂に向け、2月にはLGBTQAサークル「にじひろ」の学生を交えた話し合いが行われ、学生の意見

も取り入れられた。ガイドラインの作成には、当事者の一人として土井裕人助教(人社系)も携わった。土井助教は「当事者の教職員や学生の意見が反映されていることが、筑波大のガイドラインの特徴」と話した。他方、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの河野禎之助教によると、筑波大の教職員の支援制度については課題が残るといふ。

組織・職員課の担当者によると、現在出産・育児・介護などの支援制度のうち、「配偶者出産休暇」など婚姻関係が前提の制度のほとんどは、事実婚の場合も適用される。だが、同性パートナーには適用されていないという。また、現在渋谷区など全国7自治体で実施される「パートナーシップ制度」の認定を受け、同じく支援制度は適用されないという。

同課の担当者によると、今までこれらの制度について同性パートナーからの相談などはないという。担当者は「制度を変更するのは、法改正により国の制度が変わるか、法人として改正の必要があると判断した場合がほとんど。同センターなどから提案があれば検討したい」と話した。

河野助教は「性的に少数派であるかどうかに関わらず、教職員が能力を発揮できる環境にする必要がある」と指摘した。土井助教は、教職員の支援制度充実の重要性について、「性的少数者への対応が不十分だと、日本の大学に来ることをためらう海外の研究者は、当事者であるかにかかわらずいるという。こうした対応は、優れた研究者を筑波大に呼び込むことにもつながる」と話した。

カミングアウトは「自分の性的自認や性的指向などのセクシュアリティを他人に公表すること。」

「Think LGBT+」では、性の多様性を取り巻く社会を、独自の視点で切り取ります。

世界初の同性結婚法 制定に尽力

オランダ・アムステルダム

コーヘン元市長と会見



本紙の単独会見に応じたヨブ・コーヘン氏（8月27日、アムステルダム市内で）＝木村誠撮影

【アムステルダム（オランダ）で本紙特派員団、2面に一問一答】世界初の同性結婚法成立に尽力し、世界で最初の同性カップルの結婚式を取り仕切った元アムステルダム市長のヨブ・コーヘン氏が本紙の単独会見に応じた。元市長は「性的少数者への」理解を進めるには、対話を重ねることが重要」と強調。家族の在り方の多様性がオランダでは理解されていることを示した上で、日本の議員が8月、性的少数者を念頭に「生産性がない」と発言したことを「理解できない」とし、精子の提供や養子を受け入れた同国の同性愛者の例を上げた。

元市長によると、同法成立に尽力した契機は法務副大臣就任（1998年）以前にさかのぼる。同性愛者の友人たちと話していた際友人らは「同性婚ができないことば」市民の平等性に関わる問題だ」と主張。「平等」の見地から法を作る重要性を再認識した。

これを機に、元市長は法案を策定し、99年に議会に提出。反対は政党・キリスト教民主勢力（CDA）だけで、世論も多くが賛成した。2001年4月1日に、

Think
LGBT+.



元市長はまた、社会が平等であるためには「時間をかけ、機会をとりえて議論することが重要だ」と話し、オランダでは家族の多様な在り方が理解されていることを示した。

オランダは、性的少数者への理解が最も進んでいる国の一つ。1946年には、世界最古のLGBT団体「COC Nederland」が設立。同団体が85年以降、同性婚を認めるよう政府に求めたことも、同法制定に大きく寄与した。

同国は米のリサーチ会社ギャラップの調査（2014年）で、性的少数者にとって最も暮らしやすい国に選ばれている。

元市長はまた、社会が平等であるためには「時間をかけ、機会をとりえて議論することが重要だ」と話し、オランダでは家族の多様な在り方が理解されていることを示した。

1947年生まれ、70歳。オランダ北西部のハールレム出身。ライデン大学教授、政治家。アムステルダム市長、オランダ労働党首などを歴任。06年には世界市長賞の候補に選ばれた。

◆ 本紙は筑波大学の海外留学支援事業「武者修行支援プログラム」の助成を受け、性的少数者への理解が進むオランダ取材するため、8月21～30日に同国に特派員を派遣しました。本紙特派員は、木村誠（人文学類2年、益本健太（同3年、越智小夏（比較文化学類3年、森賀遼太（社会学類2年、秋田耕平（同3年です。

ヨブ・コーヘン（Job Cohen）

「理解には対話が必要」



本紙記者の質問に答えるヨプ・コーヘン氏(左)(8月27日、アムステルダム市内で) =木村誠撮影

【1面参照】世界初の同性結婚法成立に携わった元アムステルダム市長のヨプ・コーヘン氏との一問一答は以下の通り。
(本紙特派員団)

——同性結婚法の制定に関わった経緯は？

1998年に法務副大臣

に就任し法案の作成に関与した。2001年にアムステルダム市長に就任し、同

年4月1日の同法施行日に世界初の同性カップル4組の結婚式を取り仕切った。

——その時どう感じましたか。

市長として最も大きい仕事のひとつだった。副大臣として法案提出時から携わってきたため、感慨もひとしおだった。結婚式の参加者は皆幸せそうで、これがあるべき姿だと感じた。

——同法制定後オランダ、特にアムステルダムの状況はどのように変化しましたか。

同法の制定以前から、アムステルダムは同性愛者に寛容な世界有数の都市だった。

Think
LGBT+.



たが、施行後ますます同性愛者や同性結婚が当たり前のことになった。近年は、同性愛への理解があまり進んでいなかったり、宗教で(同性愛が)禁じられている国からの移民が増えているが、(平等や社会の多様性について)対話を通じ理解を深めることが重要だ。

無論、時間はかかる。60

年前、ある級友が同性愛者だと知っていたが、級友は当時それを公にできなかった。人々には、各人の思いに従い行動する機会を与えらるべきだ。

——同法の成立に尽力しようと思ったきっかけは何ですか。

オランダでは、異性愛者や同性愛者にかかわらず、事実婚を選ぶカップルが少なくないため、当初は同性

愛者らが「結婚」にこだわる理由が分からなかった。だが、同性愛者の友人が社会の「平等性」を説き、法整備の重要性を認識した。

——同法が世界に与えた影響は。

大きな影響があった。米国では多くの州が同様の法律を導入したし、欧州各国もそうだ。

——日本では、「生産性がない」など、性的少数者への批判があります。理解を進めるにはどうすればいいですか。

「生産性」の批判はほかばかり、理解できない。繰り返すが、対話が重要だ。理解があり、(報道機関のように)事実を伝える機会がある人が「全ての人は平等に扱われるべきだ」と主張し続けられればよい。

筑波大「海外武者修行支援プログラム」助成

性的少数者への理解 最も進む

性的少数者への理解は、最も進むとされているオランダ。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

発達段階に合わせ実施

性教育は4〜12歳の初等教育で、12〜18歳の中等教育で、発達段階に合わせて実施される。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。



アムステルダム市保健局のスピルトイス氏(8月28日、同保健局で) = 木村誠撮影



COCのダイク氏(8月28日、アムステルダム事務所) = 木村誠撮影

性教育 専門家に委託も

一部の国では、性教育の専門家や民間団体に委託して実施されている。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

性的少数者への理解は最も進む

オランダは世界的に性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

オランダ人当事者

オランダには、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

「特別な存在ではない」

性的少数者は特別な存在ではない。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

理解には対話が重要

性的少数者への理解には対話が重要。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

視点

オランダでの取材で、性的少数者への理解が進んでいることが分かった。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

「寛容なのは普通のこと」

オランダでは寛容が普通のこと。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

オランダ各地を取材



筑波大学のダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターによる、体質の異なる学生や教職員への就職活動支援。オランダの学生生活の多様性を伝える。オランダの学生生活の多様性を伝える。

大学の現状

オランダでは、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

性的少数者の存在を訴える

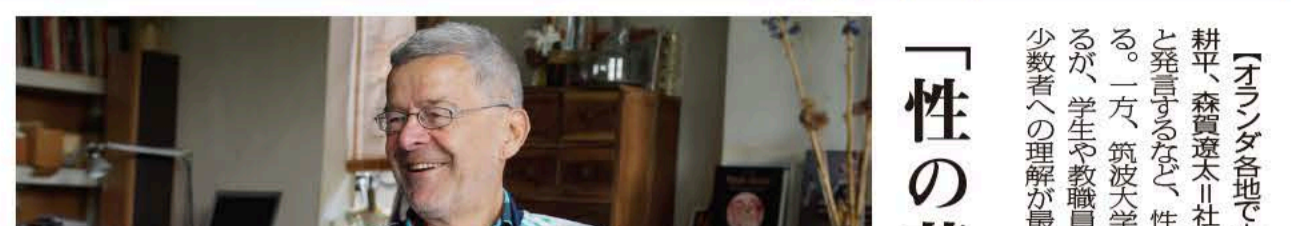
オランダでは、性的少数者の存在を訴える活動が行われている。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

大学内で差別「感じない」

オランダでは、大学内で差別を感じないという声がある。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

「寛容なのは普通のこと」

オランダでは寛容が普通のこと。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。



性的少数者研究の第一人者であるヘルト・ヘクマ元教授(8月24日、ヘクマ元教授の自宅で) = 木村誠撮影

「性の革命」を経て理解進む

オランダでは、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

世界初の同性結婚法成立

オランダは、世界初の同性結婚法を制定した。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

性的少数者の存在を訴える

オランダでは、性的少数者の存在を訴える活動が行われている。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

大学内で差別「感じない」

オランダでは、大学内で差別を感じないという声がある。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

「寛容なのは普通のこと」

オランダでは寛容が普通のこと。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

「寛容なのは普通のこと」

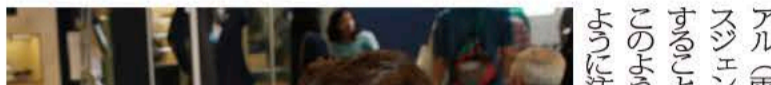
オランダでは寛容が普通のこと。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

「寛容なのは普通のこと」

オランダでは寛容が普通のこと。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

「寛容なのは普通のこと」

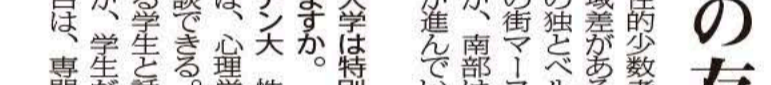
オランダでは寛容が普通のこと。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。



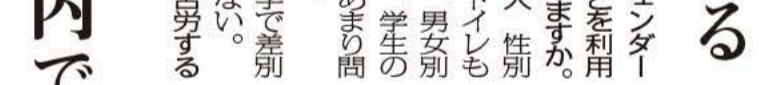
ライデン大学の学生ら(8月27日、ライデン大学で) = 秋田耕平撮影



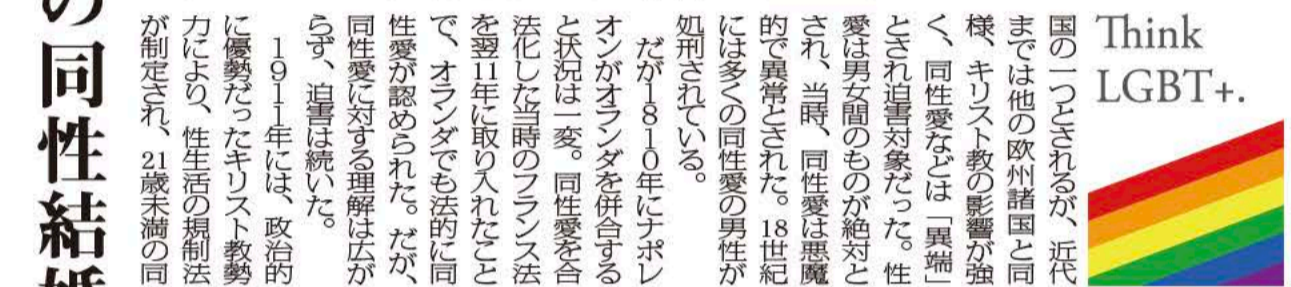
アムステルダム大 内(8月26日、アムステルダム大学で) = 木村誠撮影



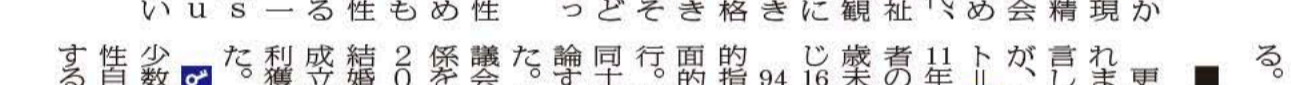
アムステルダム大学の学生ら(8月26日、アムステルダム大学で) = 木村誠撮影



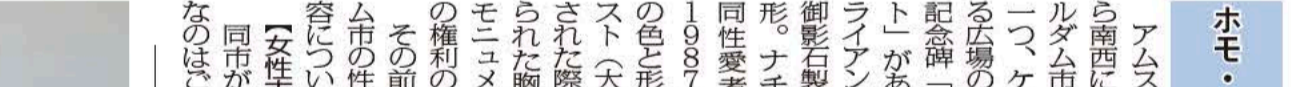
アムステルダム大学の学生ら(8月26日、アムステルダム大学で) = 木村誠撮影



性的少数者への理解は最も進むとされているオランダを取材。その現状を探った。



オランダでは、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。



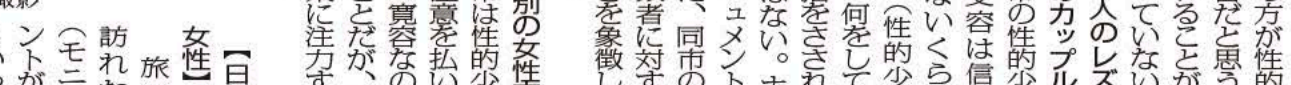
オランダでは、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。



オランダでは、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。



オランダでは、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。



オランダでは、性的少数者への理解が進んでいる。筑波大学は、オランダの先進的な性教育プログラムを参考に、国内の性教育の現状を調査し、その成果を踏まえ、性教育の充実を図る。

記者の 声

Think
LGBT+.



報への適切な対処や行動の選択

を控えるのは本末転倒だ。

が必要となる」(中学校)と書かれていた。これに対しては「性的少数者も考慮した内容にすべきだ」という批判が起き、文部科学省にはこれを反映したパブリックコメントが368件寄せられた。

思い出すのは、アムステルダム市の路上で人々に性的少数者について聞いた時のことだ。ほとんどの市民の回答は「性的少数者に社会が寛容なのは普通のこと」。むしろ、日本人観光客の「性的少数者、LGBTという言葉を見たことがない」という回答が印象的だった。確かに日本では、私の周囲でも「トランスジェンダーとゲイは同じだと思っていた」など、誤解や偏見が伺える発言をしばしば耳にする。両国の差を感じる。



越智小夏

筑波大学海外派遣支援事業「海外武者修行支援プログラム」で8月下旬、性的少数者への理解や制度が進むオランダに行き取材した。その中で印象的だったのは、同国の性教育だった。4歳から始まる義務教育では、第二次性徴や生殖の知識のほか、性自認や性的指向の多様性も教えるという。性的少数者への理解を促進し、誤った知識や偏見が広がらないようにするために、日本もオランダ同様、義務教育での性教育の充実を図る

性的少数者 オランダで知った性教育

日本の現場も見習うべき

べきだと思う。

アムステルダム市保健局の担当者、ウィルコ・スヒルトイス氏によると、オランダでは各自

これに対し、現在の日本の義務教育では、性自認や性的指向の多様性に関する指導は必須ではない。象徴的だったのは、

だが同3月、指導要領はその

治体が性教育の具体的なプログラムを組む。同市の場合、必要

2020年4月からの学習指導要領の改訂を巡る論議だった。

ままで改定されてしまった。報道によると、これらの意見を反

な教材などは市が無償で提供。専門的な指導では、性教育の専

昨年2月に公開された指導要領案では性教育について過去の指導要領を踏襲。「思春期にな

映しなかった理由について同省は「保護者や国民の理解などを

業も利用する。この中では、同性を好きになることは、「決して異常ではない」と教えるとい

ると異性への関心が芽生える」(小学校)、「性衝動が生じたり、

考慮すると難しい」と説明したという。だがそもそも、教育の

て異常ではない」と教えるとい

異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情

大きな目的の一つは「理解」の促進ではないか。理解が追い付

う。

ことなどから、異性の尊重、情

いていないことを理由に、教育

長・比較文化学類3年)

務教育での性教育の充実を図るべきだ。(筑波大学新聞副編集

絵馬に大学への期待込める

東京レインボープライド

性の多様性を訴えるイベント「東京レインボープライド2019」の「プライドフェスティバル&パレード」が4月28、29日、代々木公園（東京都渋谷区）周辺で開かれ、筑波大学は東京大学と合同で初参加した。

（後藤佳怜 社会学類2年、写真も。12面に関連写真）



「絵馬」を飾る来場者たち（4月29日、代々木公園で）

イベントは、NPO法人東京レインボープライドが主催し、今年で8回目。パレードやアーティストの公演などが催され、2日間で約20万人が参加した。

筑波大からは、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（DACセンター）の教員2人とボランティアの学生6人が参加し、東京大の性的少数者支援サークルなどから参加した約10人とブースを出展。来場者に、性の多様性などに関し大学や社会に期待することを「絵馬」に書

Think
LGBT+.



きこみ、ブースに飾り付けてもらう企画を実施した。絵馬は2日間で約200枚

集まり、「大学でジェンダーやセクシュアリティ（性的指向）の授業を必修にしてほしい」、「大学にセクシュアリティについての相談窓口を設けてほしい」などの要望が書き込まれていた。

ブースを企画、運営した河野禎之助教（人間系・DACセンター）は「高校生や大学生が多く訪れて交流できたことは大きな成果」と話した。また、来年は更に多くの大学と合同で参加する方針だという。河野助教は「多くの大学が連携すれば、社会に対する影響力

も増すだろう」と語った。

パレードでは1万人以上が渋谷の街を練り歩いた。参加者は性の多様性を象徴する「レインボーフラッグ」などを持ち、性的少数者への理解や多様な生き方の尊重を訴えた。また、イベントでは楽天などの企業のほか、オランダ王国大使館など計180団体がブースを出展。同性カップル向けアクセサリーの店やエイズ予防を学べる展示などさまざまなブースが並んだ。

記者の目

取材中、筑波大のブースを訪れたある女性と話した。彼女は途中から夫について話し、写真を見せてくれた。写っていたのは、赤いワンピースを着た笑顔の男性。レディース服を着るのが好きで、家ではおしゃべりだという。女性は「今日も一緒に来たかったけれど、まだためらいがあるみたい」と呟いた。

東京レインボープライド2019の会場は、自分らしさを存分に表現した服装の人々で熱気に満ちていた。参加者数は過去最多で、メディアも盛んに報じた。また、電通が1月に発表した同性婚の法制化に関する意識調査では、78・4%が「賛成」・「どちらか」と賛成」と回答。多様性を認め合う価値観が根付き始めていると言える。

東京レインボープライドが目指すのは、全ての人が自分らしく生きられる社会だ。しかし、このイベントでも、参加をためらう人がいる。多様性の輪は広まっているように見えても、未だ道半ばだと再認識した。また、「絵馬」の要望にも表れているように、大学の性的少数者への対応も十分とは言えない。筑波大が中心となり、大学間の連携強化や性的少数者への対応方法の共有を進めることを期待したい。（後藤佳怜）

性的少数者の理解訴える

筑波大教員らが議論



イベントで話す河野助教＝ソニー提供

Think
LGBT+.



大学における性的少数者の居場所づくりについて考えるイベント「ダイバーシティトーク with UDA」が9月12日、ソニー本社（東京都港区）で開催され、550人が参加した。ソニーと大学ダイバーシティ・アライアンス（UDA）の共催。イベントでは国文学研究資料館長のロバート・キャンベル東大名誉教授による講演やパネルディスカッションが行われた。山口大学（山口市）など全国5カ所ではライブ配信もされた。

（田所涼二教育学類2年）

イベントは2部構成で、第1部では、自身が同性愛者であり、パートナーの男性と米ニューヨーク州で結

スを十分に発揮できなくさせる。それは結果として文化の活力を削がせることにつながる」と話した。

第2部では、大学における性的少数者の居場所づくりをテーマに、大学や企業関係者と性的少数者計6人によるパネルディスカッションを開催。筑波大からは河野禎之助教（人間系・DACセンター）と土井裕人助教（人社系）が登壇し、ソニー人事センター長の望月賢一氏も参加した。

議論では望月氏が、企業や大学といった大規模な組織では性的少数者の問題について関心が低く、対応を進めづらい現状があると発言。また、河野助教は、大学では公言していた性的指向を、就職後に隠すようになる例も少なくないことを紹介した。企業が性的少数者をどれだけ理解しているか分からないからだという。議論全体では、大学と

「当事者にとって人生の一部である性的指向を社会的に隠すことは、さまざまな場面で本人のパフォーマンス

企業の連携を進める必要性などが提唱された。

河野助教は「大学が企業などと連携することは、学生のキャリアを支援するう

性的少数者支援の情報共有

「UDA」発足

大学などで実施されている性的少数者への取り組み情報の共有を目指す「大学ダイバーシティ・アライアンス（UDA）」が6月に発足した。各大学の性的少数者への支援内容や体制などをデータベース化し、これに基づき大学関係者などが参加する勉強会やコンサルティングを行うことを目指す。データベースは高校生や企業関係者などにも活用してもらうことを想定している。

発起人代表は筑波大学DACセンター長の五十嵐浩也教授（芸術系）。土井裕

えで重要だ。今回のイベントで、全国の大学関係者に学外とのつながりを築く必要性を伝えることができた」と語った。

人助教（人社系）、河野禎之助教（人間系・DACセンター）も発起人となるなど、筑波大関係者が立ち上げに大きく関与した。

UDAは各大学の取り組み情報などを提供してくれる賛同者を募っている。当面は大学関係者や学生に限るが、高校の教職員や企業などの社会人の参加も検討していく。

河野助教は「これまで性的少数者への支援は全国の大学で別々に行われてきた。UDAでは、それらの情報を一つにまとめ、誰もが利用できるようにしたい」と話した。（後藤佳怜）

茨城県 パートナーシップ制度導入

今年7月から 都道府県では初

茨城県は7月、性的少数者のカップルを公的に認める「いばらきパートナーシップ宣誓制度」を導入した。10月28日現在、同様の制度は茨城県以外に全国26市区町が実施しているが、都道府県規模での導入は初。28日までに20組が申請した。

(北川瑠菜 比較文化学類1年、後藤佳怜、4面に記者の声)

この制度は、一方または双方が性的少数者のカップルが対象。宣誓の希望日をと

事前予約したのち、住民票の写しなどの書類を提出すると「受領書」が交付され



本紙の取材に応じる滑川友理市議 (10月19日、水戸市で) =北川瑠菜撮影

る。夫婦や親子、事実婚カップルなどに限られてきた県営住宅への入居申請や、県立病院での面会・手術同意などの際、家族と同等の扱いが認められる。県は、各市町村に対しても、市営住宅・病院で同様の対応をするよう依頼した。28日現在、性的少数者のカップルの市営住宅への入居は、水戸、つくば、土浦など県内13市町が対応を開始、あるいは開始予定となった。

Think
LGBT+.



県はまた、各市町村に窓口などで性的少数者に差別的な対応をしないことや、提出書類などで不必要な性別欄の削除を求めた。

要請を受けたつくば市は、性別欄のある書類の確認を実施し、印鑑登録の申請書から性別欄を削除した。市担当者によると、市が性別欄の必要性を検討したことは今までなかった。県は民間にも同様の取り組みを広げるため、賃貸住宅や医療、生命保険などさまざまな分野の業界団体へ働きかけているという。

◆ レズビアンを公表しており、同性パートナーと一緒に受領書を受け取った水戸市議会議員の滑川友理氏に話を聞いた。

(聞き手・後藤佳怜)

——県の制度への評価は同様の制度は市区町村規模しかなかった。県レベルでの実施は意義深い。県内での性的少数者への理解も深まるのではないかと

——制度に課題はあるか
申請手続きが県庁でしかできないこと。申請書を提出後、受領書交付のために県庁を再訪する必要がある。遠方の人には負担だ。婚姻届と同様に、各市町村でも手続きできるようにすべきだ。

——現状では県営住宅・病院などでの対応に限られているが

結婚祝い金や介護・看護休暇、扶養手当など福利厚

生の対象に性的少数者カップルを含めるべきだ。多くの会社では事実婚カップルも対象となっているが、性的少数者カップルも対象の企業はごく一部に限られる。私自身、以前の勤務先をパートナーの看護で休む際、「自分が体調を崩した」とうそをつかざるを得ず、つらい思いをした。県職員など公務員の福利厚生を率先して改革してはどうか。

——筑波大でも、「配偶者出産休暇」など婚姻関係が前提の制度のほとんどで、戸籍上の性別が同じであるカップルは対象外だ
学校教育において性の多様性を学ぶことが重視されつつある。だが、生徒や学生への教育だけで終わってしまい、教員の意識改革につながらないことが多い。筑波大も教職員への支援を活発化することで、学生に良い手本を示してほしい。

